おはなしのくに

アンデルセン童話

イラスト　くま あやこ

むかしむかしあるところに、
あたらしくてうつくしいふくが、
大すきな王さまがおりました。

もっているお金をぜんぶふくにつかって、
いつも、きれいにきかざっていました。

そしてまい日、一じかんごとにふくをきがえました。

ある日、二人のうそつきの男が
王さまのところにやってきました。
男1「初めてお目にかかります、王さま。
わたくしどもは、はたおりしょく人です。
王さまのために、それはそれはうつくしい
ぬのをおることができます。」
男2「しかも、そのぬのは
よにもふしぎな力をもっています。
おろかものには、けっして見えないのです。」
それをきいた王さまは、かんがえました。
王さま「これはおもしろい！そのふくをきたら、
かしこいものとおろかなものを、
見わけることができるぞ！」
王さまは、ぬのをおるようにいいました。
そして、お金をたっぷりわたしました。

さて、二人は二台のはたおりきをつかって、
ぬのをおるふりをしました。

そして、
男1「一ばん上とうなきぬ糸をおねがいします。」
男2「一ばんりっぱな金をください。」
と、おねがいしては、じぶんたちのふところに入れました。

王さま「どれくらい布ができたか見てみたいな・・・。
でも、もしそのぬのが見えなかったら、
おろかものだといわれてしまうぞ。
そうだ、ひとまずあのしょうじきものの
大じんをつかわそう！
あれは、ちえもあるからな。」

大じんは、二人がはたらいているへやへ行きました。

大じん「どうか、ぬのが見えますように！
おや、なにも見えないぞ！」

男1「大じんさま、
もっとちかくによって、
よく見てくださいまし。」

男2「がらもいろもみごとでしょ！」

大じん「たいへんだ！見えない！
わしがおろかもの？
おりものが見えないなんて、
うっかりしられたらたいへんだ！」

男1「どうしましたか？」

大じん「おお、みごと！みごと！
まことにすばらしいぬのじゃ！
このがらといい、いろといい！
そうじゃ！王さまに、とてもうつくしい、
みごとなぬのだと、
つたえることにしよう。
うんうん。」

男2「おほめいただき、ありがとうございます。」

王さまは、大じんからほうこくをきいて、
とてもおよろこびになりました。

王さまは、こんどはまじめなおやく人に
見に行かせることにしました。

そしてこのおやく人も、
大じんとおなじでした。
なんどもなんども見ました
けれども、なんにも見えません。

このまじめなおやく人も王さまに

やく人「それはそれは、
うっとりするほどみごとなぬのでした。」

と、ほうこくしました。

そしてこのころ、このぬののうわさが、
町中にひろがっていました。

まちのひと「いままでにない、
みごとなぬのだそうだ！」

まちのひと「おろかものには
見えないぬのらしいよ！」

いよいよ王さまも、ぬのが見たくなりました。
そこで、大ぜいおともをつれて、はたおりのへやに行きました。
二人の男はこのときとばかり、大はりきりです。

男1「王さま、いかがですか？すばらしいでしょう？」

王さま「これはいったいどうしたことじゃ！
わしにはなにも見えんぞ！
このわしが、おろかものだというのか？
王さまにふさわしくないというのか？
ま、ま、ままことに美しい！
気に入ったぞよ！」

まわりのけらいたちも

けらい「うつくしい！みごとだ！」

けらい「すばらしい！」

けらい「さいこうだ！」

と口ぐちにいいました。

そして、このすばらしいぬので

あたらしいふくをつくって、

ちかぢか行われるパレードで

きることをすすめました。

男1「王さま！あたらしいふくができ上がりました！」

王さま「うむ。」

男1「王さま、こちらがズボンでございます。
こちらが上ぎでございます。
これがガウンでございます。」

男2「こちらのふくは、とりのはねのようにかるうございます。
きてごらんになっても、なにもきていないように
おもわれるかもしれません。」

男2「王さま、おそれながら、
おきがえのお手つだいをいたしましょう。」

王さま「うん。」

男たちは、できあがったつもりのあたしいふくを、
一つ一つきせるフリをしました。

けらい「なんてごりっぱなおすがたでしょう！」

けらい「おにあいでございます！」

けらい「すばらしい！」

やく人「パレードのじゅんびがととのいました。」

あたらしいふくのおひろめです。
王さまは、パレードのまん中をどうどうと
あるいていきました。

するとまちの人びとも、まどから見ている人たちも、
みな口をそろえていいました。

まちのひと「王さまのあたらしいふくは、
なんてステキなのでしょう！」
まちのひと「ほんとうによくおにあいですこと！」
まちのひと「すてき！」

だれもじぶんにはなにもえないなどと、いえませんでした。
じぶんが、おろかものだとおもわれてはこまりますから。

そのとき、一人の子どもが王さまのまえでいいました。

子ども「あれ？王さまは、はだかだ。
なんにもきていないよ！
ぼくには、きれいな服が見えないよ。
はだかだよ。」

まちのひと「王さま、はだかだ。なんにもきていない！」
まちのひと「王さま、はだかだ。なんにもきていない！」
とうとう、けんぶつしていた人は、
一人のこらずさけびはじめました。

まちのひと「王さま、はだかよ。なにもきていないわ！」

まちのひと「王さま、はだかだ。なにもきていない！」

王さま「どうやらみんながいっている
ことはほんとうのようだ・・・。
でも、いまさらパレードをやめる
わけにはいかない。」

王さまは、じっとまえを見ながら
あるきつづけました。

おわり